



LIVE KIDS

TIME KIDS

Since 1991

With gratitude to all the friends involved in LIVE KIDS.

About 25 Years of History

Kyoto City Youth Service Foundation

理事・顧問 あいさつ

公益財団法人 京都市ユースサービス協会

理事長 安保 千秋



日頃は、当協会の運営にご指導ご協力賜り、誠にありがとうございます。

当協会は、皆様のご支援により、平成30(2018)年度に30周年を迎えました。LIVE KIDSは、平成3(1991)年にアマチュアバンドの発表の場としてスタートし、11回大会からは新たにダンス部門を加え、青少年の文化創造活動の発信、そのサポートを目的に開催してきましたが、平成28(2016)年度の25回記念大会を一つの締めくくりとして、この形での開催を終えることになりました。

LIVE KIDSの約25年の取組をまとめ発信すること、一定の評価をし今後事業へと繋げていくこと、形にすることが必要であると考え、LIVE KIDSの長年に渡る取組に関する報告書を作成することになりました。

LIVE KIDSは、「京都会館第2ホール」を長年拠点としてきました。平成28年の25回記念大会は、「京都会館第2ホール」がリニューアルされ、新たにオープンした「ロームシアター京都」「サウスホール」にて、ロームシアター京都オープニング事業として、盛大に開催することができました。出演者の素晴らしいパフォーマンス、スタッフの準備を重ねたサポート、満員のご来場の方々の熱い声援により、様々な感動のもとに開催できましたことは、長年ともに歩んでくださった皆様のご協力とご尽力の賜物であると思っております。

LIVE KIDSの特徴は、ボランティアの高校生年代、大学生年代・社会人の青少年スタッフが主体的にチームを作り、企画運営を担い、準備及び当日の運営を支えてきたことにあります。出演者の様々なチャレンジは、この青少年スタッフが支えてきたものです。それぞれが、真剣に、本気で取組み、お互いの想いや個性を大事にしてきたからこそ、25年の長きにわたって続いてきました。そして、多くの青少年がLIVE KIDSから育っていきました。

今回、報告書を作成するにあたり、関係者の皆様から、貴重なアンケートへの回答やコメントをいただきました。本当にありがとうございました。LIVE KIDSは、役割を終えることになりましたが、お寄せいただきました皆様の言葉や想いに、当協会はとても大きな力をいただいております。皆さまのお言葉から得たことを、今後の事業に繋げ、若者の主体的な文化の発信とそれを支える活動を大切にしていきたいと考えています。

公益財団法人 京都市ユースサービス協会

顧問 遠藤 保子

(立命館大学産業社会学部 特任教授・名誉教授)



～ Chance・Challenge・Change ～

Chance (チャンス) をつかまえ

積極的に Challenge (チャレンジ) し

よりよい自分に Change (チェンジ)

1988年4月、約30年前に京都市で初めての青少年施設「京都市青少年活動センター」が京都駅前にオープンしました。(公財)京都市ユースサービス協会は、青少年の自立支援を目的として設立され、若者が自主的な活動をとおして、成長への経験の機会を持てるよう支援していくユースサービスの理念のもと、京都市青少年活動センターの運営を開始しました。

私は、若者を様々な面からサポートする協会の理念であるユースサービスという考え方に感銘を受け、協会の発足当時から理事として協会に携わり、当時から多くの若者が当協会の施設を利用して様々な活動を行っていることを見聞きしていました。

その中でも特に印象的だったのは、当時、約150のアマチュアバンドがセンターの音楽スタジオで音楽活動を熱心に行っている若者の姿でした。

「そうだ、練習の成果を発表する機会があれば、練習の励みになるのではないか」と私は思い、協会の委員会で音楽コンテストを実施してはどうか!と提案し、その結果「LIVE KIDS」が誕生しました。

この提案が実際の事業になり、協会の理念を具現化した事業の一つではないか、と思っています。しかも約25年の長きにわたり継続されたとは。感無量です。

「LIVE KIDS」では、長年審査員、審査委員長として出席し、会場でコメントを言わなければなりません。適切なコメントを考えるのはむずかしい、と思いながらも、他の審査委員の意見を聞くことによって、そのような観点から音楽を評価、審査するのか、とポイントを知ることができ、私の勉強にもなりました。

この「LIVE KIDS」の特徴のひとつとして、高校生年代から社会人まで、世代も価値観も違う青少年ボランティアがチームを作り、運営事務局・関係各社の協力、サポートのもと、主体的に企画・運営を進めてきました。

毎週のミーティング、スタッフの事前の準備活動や当日の対応はすばらしい!と思いました。

これまで1,000人を越えるスタッフがこの事業を支え、この活動の経験を活かし、様々な分野で今も活躍しています。

この報告書にも、スタッフとして関わった方々のアンケートも多数掲載されていますので、ぜひご覧ください。

2016年8月にロームシアター京都のオープニング事業として、サウスホール(旧第2ホール)で「LIVE KIDS 25回記念大会」を盛大に開催することが出来ました。

「LIVE KIDS」は一言でいうのは大変むずかしいのですが、しいて言うなら、「若者の魂の叫び」でしょうか。

皆さんに支えられ25年間開催してきましたが、一旦この形での開催は終えることになりました。今後、これまでのように若者の目線に立って、音楽、ダンスだけでなく、新たな若者文化の発信、音楽と他ジャンル(ダブルダッチ、ヒューマンビートボックス等)、若者と退職後の自由な時間が多い昔の若者とのコラボレーション等、若者の様々な活動を応援するバージョンアップした「LIVE KIDS」が復活することを期待しています。

最後になりましたが、約25年の間、関わっていただいたボランティアスタッフ、制作関係者、出演者、当日お越しいただいた来場者の皆様、多くの方々に支えられ、ご支援いただいたことに感謝を申し上げます。

目次

P.2～3	ごあいさつ 主催者 当協会理事長・顧問より
P.4～5	目次・冊子作成の経緯・LIVE KIDSについて
P.6～14	LIVE KIDS History (第1回～第25回記念大会)
P.15～21	LIVE KIDS Staffs Activities (スタッフ活動内容)
P.22～29	出演者の声「想い・コメント」
P.30～41	制作関係者の声「想い・コメント」
P.42～79	ボランティアスタッフの声「想い・コメント」
P.80～81	ボランティアスタッフ寄稿メッセージ
P.82～83	スタッフユニフォームGALLERY
P.84～85	LIVE KIDS開催ポスターGALLERY
P.86～87	編集後記・エンドロール
P.88	顧問 遠藤保子 先生を偲んで

報告書WEB冊子: <http://www.ys-kyoto.org/livekids/> をご覧ください。

冊子作成の経緯

この冊子は、平成3(1991)年から約25年間おこなってきた「LIVE KIDS(ライブキッズ)」のこれまでの取り組みや、成果、関わった方々の想いをまとめたものです。

LIVE KIDSのボランティアスタッフは高校生年代～社会人30歳までの方々が活動し、多業種の企業、大学、専門学校、NPO団体等と連携しながらすすめてまいりました。私ども「ユースワーカー」だけでは創りだすことができない「場」を、想いを共有いただいた方々のお力のもと実現することができました。ともに若者の側に立って、若者目線で考えてくださる方がたくさんいらっしゃいました。

多くの方々と関わる「グループ体験活動」をすすめる中で、若者たちが「幅広い・多様な価値観と出逢う場」、「個性を活かしチャレンジ出来る場」となっていました。活動して下さったボランティアスタッフ、関係団体各社、全員がチームとなり「同じ目標に向けて」取り組んできたことはLIVE KIDSの一番の特長です。

中学生～30歳までの青少年の出演者チームにとっても、「ステップ」や「目標」であった、「自信をつける場」であった等チームにとってそれぞれの位置づけがあったことも聞いています。

この事業に関わってくださった全ての皆さまへ感謝の想いを込め、また皆さまにいただいたお気持ちを当協会の事業に繋げていくためにも、これまでのことをまとめ冊子にいたしました。

お忙しい中、アンケートやコメント等にご協力いただき、誠にありがとうございました。

是非、お読みいただき、ご感想等もお聞かせいただけると幸いです。

公益財団法人 京都市ユースサービス協会

※この冊子の編集・デザインは、事業に参加したボランティアスタッフ有志がおこないました。

LIVE KIDS(ライブキッズ)～はじまりの経緯～

●京都市から運営委託を受けている「京都市青少年活動センター」の音楽スタジオにおいて、約150組の青少年バンドが日々練習をしていた平成3(1991)年当時。アマチュアバンドの「発表の場」としてフェスティバルを開催しようと当協会の理事の発案からスタートしました。

●その数年後、アマチュア音楽のみならず、ダンスも発表の場が少なくニーズがあったことから、音楽・ダンスなど「青少年の文化創造活動の支援」を目的に、「青少年が企画運営をすすめる」イベントとして継続的に開催してまいりました。

LIVE KIDS(ライブキッズ)～これまで、そしてこれから～

●第4回より、高校生年代から社会人まで、世代も異なる青少年ボランティアがチームを作り、運営事務局や関係各社のサポートのもと、「青少年が主体的に企画運営を進める」ことを重視しおこないだしました。

●「青少年が主体的に創る」ということや、この活動を通じて、若者たちが日頃関わるコミュニティでは出逢えない多世代や多様な価値観と出逢い、自身のコトを知り、他者との関わりを考え、またチームの中でひとりひとりの可能性が発揮される等の「若者の成長に繋がる」ことにご賛同していただく企業・団体も年を重ねる度に増えました。皆さまのサポートにより、約25年もの間事業を継続することが出来たと感じています。

●第25回記念大会を目指した開催(第24回以降)からは、「若者文化発信事業」と位置づけ、音楽・ダンスだけでなく漫才・ヒューマンビートボックス・ダブルダッチ・よさこい・楽器なしでの個人演奏(カラオケ)等あらゆるジャンルが披露できる場となるように取り組みました。

●長年続けてまいりましたが、予算や当協会での方向性等、様々な要素でイベントの継続が難しくなり、一旦この形での開催は終えることになりました。本当にこれまでご支援いただき、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

●この冊子にいただいたお気持ち・お言葉を噛みしめ、当協会に対する期待のお言葉などは、実現できることは具現化し、当協会として今後も邁進していきたい所存でございます。何卒今後ともよろしくお願い申し上げます。